

◀突撃同行リポートスペシャル▶

大山 登山



Part II

昨年5月31日、釜田隊長率いる西部青年中央会山岳隊4名が、大山初登頂を果たしたのは記憶に新しい。いや、忘年会とともに忘れ去られた過去の事も知れないが、去る7月4日、武海委員長率いる総務委員会が、「新人研修は体力作りから」と銘打ち、大山一木一石運動に協力し、委員会の結束を図った。

講師先生である一木一石運動事務局長・環境庁嘱託自然保護監察員の乾朝弘氏より「常日頃の毒気を抜き、大山の自然を十分満喫して下さい。」と、激励を受け、夏山登山道→山頂→元谷→大神山神社→大山寺ルートの山行を楽しんだ。

金田雅史会員のペースメーカーとしてのリード役が大いに貢献し、予定時刻を大幅に短縮しての山頂到着。また、乾講師との大山の自然保護にまつわる話を聞きながらの山行は、苦行と全く感じないから不思議である。山頂では、記念撮影の後、大きな声で綱領唱和。ビデオを撮っているせいか、皆、作り笑顔がうまく、誰ひとりとして疲れた顔をした者がいない。役者だ。これが、黒子役への第一歩なのか。指導が行き届いている。

今回の研修は、新人よりも現役会員の毒気を抜く事に大きな意義があったようだ。武海委員長は、その点をちゃんとお見通しだったのかも知れない。



聞いてごしない Part 12

いよいよ、我々西部青年中央会も新体制での「宮廻丸」が出航した。世間は「不況」「金融不安」など挙げればきりがないほど荒れた嵐の日本海の様であるが、会員相互で力を合わせてこれを乗り切り、来年の「25周年」といったすばらしい港に凱旋したいものだ。

先日、総務委員会に同行して大山に登った。山頂付近はいくく雲がかかっていたが、時折その雲の切れ間から見える下界のなんと素晴らしいこと。眺めていると時の経つのを忘れてしまうようであった。風で海も荒れていたはずなのに山から見ればとても穏やかで、その景色は音も無く雲に見え隠れしていた。我々も日々の仕事に追いまわられて目先のことだけに捕らわれるのではなく、時に大きな視点で物事を見ることも必要ではなからうか。大山登山は正直言ってキツかった。何度も「止めときゃよかった。」と後悔したが、同類相憐れむとばかりにA会員と共に元気なK会員に励まされて何とか切り切り、「感動の山頂小屋」にたどりついた。まるでテレビのドキュメンタリーの様であった。

日々不摂生を重ねている小生の大山登山の成果は、「心の友」A会員といった友を得られたこと（しかし、下山では裏切られた。）と、体重が登山の前後で2.5kg減り、体脂肪率も3%落ちたことである。ウーム、予想以上の成果であった。何か癖になりそう(?)。 キンタロウ

●●●●● 新入会員紹介 ●●●●●

新入会員カルテ

氏名：金田 道英 血液型：A
企業名：カネックス株式会社



この度、青年中央会に入会させて頂きました金田道英です。今後は、青年中央会の活動を通して異業種の方々と交流を深め、諸先輩方に教を頂き、自分自身を高めてゆきたいと思っております。15年間と卒業までには、まだまだ先が長いですが、必ず卒業したいと思っております。どうぞ、よろしくお願い致します。

新入会員カルテ

氏名：野坂 修男 血液型：O
企業名：葬仙(米子葬祭会館)



7月に入会しました葬仙の野坂と申します。今までこの様な会に参加する機会が無かったので、異業種の方々とお付き合いをさせて頂きながら、自分自身を磨いていければと思っております。仕事柄いつもバタバタしていますが今後とも宜しくお願い致します。

新入会員カルテ

氏名：安福 敏人 血液型：O
企業名：有限会社アンプク



この度、青年中央会へ入会させて頂きました安福でございます。綱領にあります、英知・友愛・団結を考えながら行動し、自己の研鑽に努め、地域社会の発展に貢献できればと思っております。そして、今はまだ真っ白なキャンパスに、諸先輩方のご指導を頂きながら素晴らしい色付けが出来る事を願っております。今後ともよろしくお願い致します。

8月例会案内

とき 平成10年8月19日(水) PM6:30~
ところ ホテルサンルート米子
テーマ 「スクールカウンセラーからの親への提言」
講師 鳥取大学医療技術短期大学部教授 臨床心理士・スクールカウンセラー 落合 潮氏
担当 げんこつ委員会

8月役員会報告

8月定例役員会が8月3日(月)、米子食品会館において開催された。
当日の主な議題は、次の通りです。
(1) 8月、9月例会開催の件
(2) 中小企業全国大会参加の件
(3) ソフトボール大会開催の件
(4) その他
※尚、詳細については各委員会までご照会ください。

編集後記

新広報がスタートして、ひと月。恒例の行事を無事終了しても、息つく間がないのは宿命であろう。『生みの苦しみから、快感へ。』今年度、広報委員会メンバーの合言葉としたい。

「21世紀への責任」 —Act For Future—

雄 飛

第24号 1998. 8.

●発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 ●編集責任者：中津尾直己 ●会員数：133
●会長：宮廻 裕和 ●印刷所：東京印刷株

ご挨拶



会長 宮廻 裕和

23代小原会長の後を受け、24代会長を務めることになりました。宮廻でございます。この1年間よろしくお願い致します。

さて、西部青年中央会も本年度で24期を迎え、来年は25年という大きな節目を迎えようとしています。昭和50年89名の若手経済人によって設立された西部青年中央会も、年を重ねるごとに会員数も増え、会に対する社会的役割も求められるようになってきました。

しかし、設立から24年、社会環境、経済環境は今、大きく変化してきています。戦後一貫して右肩上がり続けてきた経済成長もここにきて停滞、あるいはマイナス成長という大変厳しい状況となりました。過去の経験や実績だけで次の時代が読めなくなってきたといえます。つまり、政治も、経済も変わらなければならない、そうした時期に来ているのかもしれない。

今、私達はちょうど21世紀の入口に立っています。西部青年中央会も24年といういわば、一世代が終り、次の25年に向けて準備を始めなければならないと思ふ本年度のスローガンを「21世紀への責任」とさせて頂きました。つまり、それぞれの企業の、この地域の未来へのグランドデザイン



副会長 樋口 一夫

この度、平成10年度、副会長を仰せつかりました樋口です。入会6年目でこのような大役を務める事となり不安一杯ですが、これもチャンスだと感謝しております。

宮廻会長の目指す21世紀への責任を基本ベースに、自分自身の家庭、仕事、中央会の過去を振り返り、これからどの様にそれらに対して行動すべきかを、じっくり考えていく一年にしたいと思っております。

げんこつ委員会(田川委員長)と21地球委員会(三嶋委員長)を担当させて頂きます。尚委員長ともにテーマにそって、元気良く行動力をもって委員会をまとめて楽しんでもらえたいと思っております。

担当委員会だけでなく、他の副会長に色々と教わりながら、力不足ではありますが精一杯頑張りますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。



副会長 堀田 収

本年、政治行政委員会と総務委員会の担当副会長をさせて頂くことになりました。

政治行政委員会は、引きつづき、広域合併を政治行政の視点から取り組んでいくとのことです。また、総務委員会は、とくに、OBそして、会員相互のより以上の交流、懇親に力を入れていくとのことです。

浜委員長も武海委員長も、実力、意欲の充分ある委員長ですので、力が100%出し切れるようにお手伝いさせて頂きます。

今年一年、宮廻会長の理念が実行できますよう、全力でサポートさせて頂きますので、どうぞよろしくお願い致します。



副会長 市井 清明

今年度宮廻会長の下、副会長をつとめさせて頂きました。

入会以来、情熱的な面を強く評価して頂いたように感じておりましたが、今年度は副会長としてあらゆる面での自分らしさを発揮し、25周年に向けたより素晴らしい会になれるよう一年間努力していきたいと思っております。

を描こうということ「ACT FOR FUTURE」未来へ向かって行動をしようということです。おそらく、これからの経済活動は、環境への配慮、グローバル化への対応、また一方では、規制緩和による競争の激化、まさに生き残りかけた争いになっていくものと思います。しかし、私達は同じ時代を生きる仲間として、共に語り知恵を出し合い、できればビジネスで結びつきながら少しでも光明が見いだせれば中央会活動も大きな意義があるものと思います。本年度の委員会構成もそのような考え方のもと25周年特別委員会を含め10委員会とさせて頂きました。各委員会でのこれからのビジネスとは、あるいはこの地域の将来はどうなるのかなどについて考え、行動していこうと思っております。そして、本年度の活動指針として、まず最初に会員一人ひとりが積極的に例会委員会に取り組み「達成感のある例会・委員会活動をしよう」ということです。2番目に、一人ひとりが積極的に活動することによって「幅広い仲間づくり」しようということ。幅広い仲間づくりから3番目に「ビジネスの交流」を図って頂きたいとおもいます。4番目に「青年中央会会員としての自覚と誇り」を持っていただきたいと思っております。と申しますのも、当会のOBの皆さんは今、この地域でそれぞれの分野のリーダーとして活躍をいらっしやいます。これから、25年先にはおそらく我々の世代がこの地域のリーダーとして頑張らなければなりません。そうした意味で青年中央会の会員としての自覚と誇りをもって頂きたいのです。

これから、ますます厳しくなる経済環境の中みなさまには、何かとご面倒をかけることもあるかと思いますが、どうかよろしくお願い致します。

会員の皆様、OB、事務局の皆様、そして色々とご迷惑ご心配をかけるであろう四役の皆様、一年間よろしくお願い致します。



副会長 野嶋 功

皆さんこんにちは、本年度副会長の任を拝命いたしました野嶋です。若干25歳で本会に入会し気が付いた時には、既に15年が経過してしまいました。その間、本会から教えられ、得たものはあまりに多く、逆に自分が貢献したことが殆どなかったことは慙愧にたえません。

このような私に恩返しの場を与えて頂いた宮廻会長に感謝すると共にその重責に対して身も縮まる思いで一杯です。

宮廻会長が提唱される本年度のテーマ「未来のグランドデザインを目指して」のもと、私は、広域合併を観光資源の面から考えていく「地域ビジョン委員会」と会員相互のビジネス面での交流を図る「ビジネス交流委員会」を担当させて頂きます。

会員皆さんが丸一となって各事業が当初の成果を挙げられるよう潤滑油的な役割を果たしていきたいと思っております。浅学非才の身ではありますが、一年間よろしくお願い申し上げます。



副会長 中津尾直己

この度、宮廻会長のもと、副会長を務めさせて頂くこととなりました中津尾でございます。今年度は21世紀を前に「ACT FOR FUTURE」といった非常に大きなテーマを掲げ、なおかつ来年には西部青年中央会の「25周年」といった節目を迎えるにあたっての「行動の年度」であると考えます。中央会に育てられてきているような私が、この重要な年に大役を仰せつかり、若干戸惑いも感じておりますが精一杯頑張りたいと思っております。

担当委員会は25周年特別委員会(畑中委員長)、広報委員会(南委員長)です。頼もしい委員長お二人とともにしっかりと委員会活動を行っていきたく思います。

何卒、よろしくお願い致します。

平成10年度新委員長抱負



21地球委員会委員長 三嶋 雄司

青年中央会に入会して早いもので、8年目になります。これまで一会員として平和に(?)過ごしていましたが、まさか委員長に指名されるとは…。不安と期待で葛藤の毎日ですがせっかく頂いたこの素晴らしいチャンスに、自分の殻を破り一回り大きな男へと成長すべく自分を励まして頑張ります。前21地球委員会の大野木委員長の元で学んだ環境問題への気付きを元に、さらにその奥へと進んでいきたいです。



げんこつ委員会委員長 田川 廣美

今年度、新設の「げんこつ委員会」を担当させて頂くことになりました田川です。よろしくお祈りします。げんこつ委員会は21世紀を担う若者たちの教育問題を考えてみたいと思います。昨今、新聞紙面において中高生の非行、いじめ、殺人などの記事は少なくありません。今年度の中央会テーマである「21世紀への責任」を担う子供たちをとりまく問題を解決できるか。また防く事ができるか。今、何をすることができるのか、を考えてみたいと思います。げんこつ委員会が次年度も継続されますよう中央会会員及び委員会の皆様のご協力をお願い致します。



政治行政委員会委員長 浜 義徳

広域合併は西部青年中央会が永年取り組んできた問題ですが、国、県、市町村それぞれの思惑や各市町村の財政状況と各市町村民の意志によって事は流動的となる非常に難しい問題です。西部青年中央会政治行政委員会としては、国、県、市町村の各政治家、行政の方々からヒアリングを行うことで鳥取県西部地域ひいては鳥取県の21世紀の地方自治のあるべき姿を創造したいと思ひます。さらに事例取捨については、既に広域合併に成功した自治体から合併のいきさつと行程、合併によるメリットとデメリット等を学びたいと思っております。



総務委員会委員長 武海 章

会員の皆様、本年度は昨年度よりまず1回、例会・委員会への参加を増やしましょう。参加して、内容を理解して欲しいと思ひます。県中央会の行事に1回は出席してみましよう。その良さがわかるでしょう。今年は東部の会員の方と交流を深められると思ひます。

もう1つ、本年度はバッジ、ジャケットの着用をお願い致します。通常の例会、委員会ではバッジをつけたジャケットが制服と考えて頂きたいと思ひます。盛夏においても、会長、委員長の挨拶が済みますまで着用してください。現場作業のある方も、例会・委員会の当日は、ジャケットを車にあらかじめ用意しておくなど、出来る限りご協力頂きたいと思ひます。最終的には、会員の方の自己責任に問うことになると思ひます。



経営委員会委員長 奥森 隆夫

今年度、経営委員会委員長を務めさせて頂きます。奥森隆夫です。伝統ある当委員会を当委員会メンバーと皆様の御協力を得て頑張りたいと思ひますのでよろしく御願致します。

戦後、日本経済が経験をしたことのないデフレスパイラルになりつつある時代に一体何が出来るのか?考える毎日です。何とかなる、いつか良くなると言う他人本意的な所があるのではないのでしょうか?各社が今何をすべきか私自身から言えない。そこで何々に講習会、講演会等聞きに行く、そこで何か良い事があつたと思ひます。しかし金と人材がない…今の会社内容では出来ないと思ひます。そこで「企業相互間」で何か出来ないのでしょうか?それがOEMであります。企業間でお互いが持っている技術、情報、販売網等を交換、組み合わせをすることによって、新商品、新技術、新販売先等が出来るのではないかと思ひます。会長より21世紀の経営として幅広いテーマを頂いております。これも、ビジネスチャンスは自分自身で作ることの考えの元、当委員会は年間勉強していきたいと思ひますのでよろしく御願致します。また、以上の考え方をしておりますので中央会メンバーより講師先生を御願致しますのでよろしく御願致します。



2020グランドデザイン委員会委員長 戸野 雅弘

今の私たちの日々の行動・決断が、この鳥取県西部の25年後の世界を創っていくものと思ひます。21世紀の産業界のあるべき姿を見据え、鳥取県西部の地域経済と当会会員企業の指針となるべき方向性を、一年間の委員会活動を通して明らかにしていきたいと考えています。当会には様々な業種の企業が集まっていますが、それぞれが現業を深めていき、あるいは相互の交流を通じて、新しい商品やサービスが生まれてくればと思ひます。



ビジネス交流委員会委員長 河端 謙治

この不況下、例外にもれず各企業とも大変なときを迎えています。しかし、この時期にあつて「ニュービジネス」といわれるもので成功している企業が存在するの事実です。今後を期待されている「環境産業」「福祉産業」「情報産業」等々がそれに当たるものではないかと思ひます。また、「特徴ある商品なのに一般に知られていないもの」はPR次第で需要が増える可能性もあります。

そこで、当会の多種多様な業種の企業の取扱商品及び内容を会員及び一般に開示し活用してもらえれば、素晴らしい「ニュービジネス」が生まれるのではないかと考えます。そのためには、まず各会員企業の取り扱い業務及び商品をデータベース化する必要があります。今を乗り切るために、また今後避けては通れない現実として、システムを確立しなければなりません。方法としては、データを集計し製本(文書)して公表する。媒体(FD・CD)で公表する。Net上に公表する。等々。

昨今インターネット上で「バーチャルショップ」と言われる仮想店舗集合体がありありますが、当会中心でそれが出来れば素晴らしいものになることは間違いありません。それに向かってステップアップして行こうと思ひます。会員の皆様のご協力よろしく御願致します。



地域ビジョン委員会委員長 安藤 義人

4月6日(晴れ)
朝9時5分、宮廻次年度会長よりTEL「次年度の委員長をお願いします」「ありがとうございます、頑張ります。」と、即答したものの、目の前真っ暗、自分で本当にできるだろうか?

5月6日(曇り)
副委員長を足立徹君に依頼、彼は中学、高校の後輩。無理な頼みでも聞いてくれるだろう。

5月22日(曇り)
新年度打ち合わせ。会長より新年度の計画の発表。我が委員会のテーマを開き自分の好きな分野だと思ふ。担当副会長の野嶋さんもいい人だ。

6月5日(晴れ)
活動方針案提出。夜中までかかった。

6月15日(曇り)
例会にて、台上に立つ。足が震えた。

6月18日(晴れ)
委員会メンバー決定、いいメンバーでよかった。

安藤の中央会日記より抜粋
ともかく一生懸命頑張ります。



広報委員会委員長 南 順三

広報委員会は、雄飛・ハンサム発行とインターネットホームページのメンテが、主な活動になりますが、25周年の節目を迎えようとしているこの年は、特に広報活動の重要性が問われるのでは、と感じております。

少ない人数からのスタートですが、中津尾副会長指導のもと、メンバー一致団結して西部青年中央会をPRしてまいりますので、皆様方のご指導、ご協力よろしく御願致します。



25周年特別委員会委員長 畑中 経之

25周年記念事業の準備に当たり、まずは過去の記念事業を調査する所から始め、過去の事例を参考にさせて頂きながら、西部青年中央会四半世紀の歴史を、どういふ舞台でどう表現し、何を創り上げるのか?今期の中央会のテーマを踏まえながら、6人のスタッフで早々にその骨格を築いていきたいと考えています。そして、来年からは各委員会の皆さんにもご参加頂いて実施に向けての実務作業の運びになる予定です。その節はご協力を頂きます様よろしく御願致します。

第18回全日本トライアスロン皆生大会を終えて

和田 健二



当日、あいにくの天候の為、又もやスイムが中止(これで私自身3回目のスイム中止である)、その変わり初めての第一ラン7.8kmからのスタートとなった大会である。戦場も変わり昨年以上に練習をしていなかった為、相当おさえ気味にての第一ランであった。今大会は、自分自身の体に関心しながら無理せず楽しみながらレースをしようと考えていました。バイクも新しいコースで気持ちは良かったが、あいにくの雨の為少々肌寒い感じでゴール。最終ランの42.195kmのスタート時点では身体が相当苦しんでいるのが良くわかっていたので、とにかく赤かずに2km毎のエードステーションを1つ1つクリアして行く事だけを目標に走りました。

特に今回は、SONYの本社より広報が来年のリクルート用のビデオ撮りに来ていたので、苦しくても苦しい表情ができなかったのが一番苦しかった。なんとか身体をごまかしながら11時間30分かかり、やっとのゴールができました。毎回感じる事ですが、自分一人の力ではとても完走ができないのを多数の中央会の皆様方のあたたかい声援によって無事ゴールができました。ゴールする事で自分自身の体力と気力の自信にもなる事が一番の宝です。中央会の会員及びOBの皆様、本当に有り難うございました。来年も新OBとしてまた、参加する予定です。よろしく御願致します。

一生燃焼 一生感動 一生不悟



野嶋 功

13回大会以来の水泳中止でデュアスロン大会となった今年の皆生大会。小雨降る中、応援頂いた皆さんありがとうございました。また当日のみならずスタッフとして長期にわたりご尽力頂いた皆さん、本当にお疲れさまでした。そして衷心より感謝申し上げます。

11回連続出場となる今年のレースは、私にとっていろんな意味で大変意義深いものとなりました。トレーニングが殆ど出来なかった上、体調不良と最悪の状態で7月を迎えてしまいました。正直言ってレースの10日前までは、辞退しようかと思っておりました。然し、皆さんの励ましと最後は長女の「お父さんからトライアスロンをとったら唯のおやじだよ。」の言葉で一発発起し出場となったわけです。

灼熱の皆生が代名詞の大会は、今年は一転して曇天となり選手にとっては好条件でのレースとなりました。体が出来上がっていない私にとってもこれが幸いして、レース後の体も殆どダメージを受けることなく、翌日から普段と同じ生活をする事が出来ております。「トライアスロン」この狂気に満ちたスポーツの虜になって十数年、これまで自分の意思のまま楽しんできたこのスポーツが、なんと多くの要素の微妙なバランスの上で成り立っているのかを体感させられた今年の大会でした。

大会を支えるスタッフ、ボランティアは当然のことながら職場、家庭の協力そして健康な肉体。すべての要素が揃って初めてこのレースが成り立っていたのです。頭では分かっていたつもりでも、体感したのは恥ずかしながら11年経った今年でした。春先からいろんなことがあつて苦しかったときに励ましてくれた人々、レース中苦痛に顔も歪んでいるときに声を掛けてくれた仲間。辛い時にこそ中央会の有り難さが身に沁みて参ります。往路の河端ASで歩道一杯に人垣で見送ってくれたこと、境ASのいつもの元気な掛け声。薄くなった意識の中でも、鮮明に記憶に残っております。後押しされて今年も何とかゴールテープを切る事が出来ました。本当に有り難うございました。そしてこれからもよろしく御願致します。合掌

第18回全日本トライアスロン皆生大会に出場して

松岡 正高



今年で4回目の出場になりました。なぜか緊張感もなく大会当日を迎えました。スイム中止の放送、半分残念半分はっとする。7時青年中央会の激励会、旗のタイトルを変更して欲しい。

7時30分、第1ランスタート。今日はこれしかないと思っていたが、並び順が後でペースに乗れず失速し、今日のレースは楽しく行く事に切り替える。

バイクに入り、腰が重たく雨が降り始め体は冷え、シューズの中は水でじゃばじゃばでスピードは出ず抜かれるのみ。どうしようもなーいと感じつつ終了。

第2ラン、7kmぐらいで胸が苦しくなりペースダウンを余儀無くされる。総会の時会員の応援で、「〇〇ASまで生きている姿を見せてくれ」の声が頭の中を、そして写真班のカメラが目の前を横切り、腹を決め、楽しく走る事を思い浮かべ最終ゴールへ。

反省点は、何ヶ所かのASでの「休んでいかない」の甘いささやきに負けて休んでいることです。次回出場出来たら、そのまま通り過ぎようと思っております。

今回は完走出来たのは、OB、会員の皆さまの応援、援助があつたことです。心からお礼を申し上げます。

皆生大会は、大会スタッフに携わった会員、当日各ASでボランティアされた会員の皆さまの献身的な活動により支えられていると思ひます。長い間ご苦労さまでした。

トライアスロンボランティアに参加して

野坂 修男 7月19日(日)雨。絶好のコンディション日和とはいえない1日の暮明けとなった。

私の担当は河端ASにつめて2時間交替の交通整理。それにしても車の運転者さんや歩行者に頭を下げるのは少し恥ずかしい。そして交替迄の2時間はなかなかこない。しかしアスリート達のゴールまでの時間はもっと長い。なぜこんなに苦しいことに挑戦するのだろうか、何を考えてゴールに向かってののだろうか、色々な事が頭をよぎる。

はじめは、恥ずかしかったボランティアだがいつのまにか声か駆れるほどエールを送っているのだから不思議なものだ。

米子に来て5年、色々な形で人とふれあつてきたが、こんな形で人とふれあつたのは初めてだ。この活動を通して選手達から元気を与えられたように思う。今年は、今までで一番多い参加者数だったようだが、来年はもっと多くのアスリート達に全国から、そして中央会から参加してもらいたいと心から思うのである。

金田 道英 今回初めてトライアスロンにボランティアとして参加いたしました。今年は例年になく悪天候の為、水泳がなくなり参加選手としては残念な思いをされたと思いますが、各選手それぞれにも負けず精一杯力を発揮されました。初めてのボランティア参加ということで何をやるのか不安が募るばかりでしたが、いざ大会が始まると大会の雰囲気慣れ、だんだんと気持ちが盛り上がり参加選手と共に最後まで頑張りました。

最後に、スタッフ及びボランティアに参加されました会員の皆様長い間ご苦労さまでした。

小原 伸夫 私は、今大会のボランティアに、初めて参加しました。いつもなら沿道から見守るくらいで、縁がなかったと言うか、なかなか1人では参加する機会もなく、中央会に入会したことで、その機会を与えてもらいました。小雨降る中、集合場所の境三中に行つたらすでに数人のメンバーが作業に汗を流していました。準備が出来て最初のランナーを迎えるまでの緊張感を迎えた時の感動は、その場に居合せないと味わえないものでした。

この体験を生かして、来年のトライアスロン、その他のボランティアにもぜひ参加していきたいと思ひます。メンバーの皆様、1日本当にご苦労さまでした。

協力の結集 境三中A・S

堀田 収

当日は、水泳が中止となり、境港も朝から雨ようになりました。マラソン部から、トップランナーは、例年より30分以上早く境三中A Sを通過するかもしれないという連絡があり、大変ありがたい準備作業となりました。雨中で、いかに選手にスムーズに、サービスできるのかを考えながらの設営になりました。

青年中央会20名、家族従業員60名、中学生18名の他、団体ボランティアとして、鳥取銀行、米子信用金庫、国際ソロプチミスト境港、境港青年会議所をはじめ、多くの参加を頂きました。

青年中央会メンバーは、殆どの人にポイントに立って頂いて、事故なくスムーズに進行してもらいました。家族従業員さんにも、各部門で活躍してもらい、大変助かりました。中学生は、主に選手のスペシャルドリンク等の手渡し、可愛い声での応援をしてもらい、選手にはげみとなり、中学生にとっても貴重な体験となったと思います。また、ソロプチミストの方々も、経験者が多くて手際がよく、とてもユニークに、大きな声で応援をもらい、A S全体が盛り上がりました。他のボランティアの方々も、それぞれの役割を充分に果たして頂きました。

皆さんの協力と、あたたかい応援で、すばらしい一日を無事終えることができました。



総力戦 河端水産A・S

土井 一朗

「今年のトライアスロンは西部青年中央会の総力をあげて行う。過去にはボランティア部・マラソン部へ出向する会員と、当日だけの一般会員の間に熱意の差がかなりあったように思う。今年、全会員終日拘束とし成功に向けて総力戦で臨むのだ。」小原会長の命を受け、A・Sの責任者となった私。本部に約40名、境エイドに20数名と配置し、残り61名で長時間に渡りA・S1か所・ポイント13か所を守るという大役にその責任の重さをひしひしと感じていました。

当日は、あいにくの天候で本部の判断により水泳競技が中止となり、波瀾の幕開けとなりました。我々河端エイドのスタッフはAM9:30集合、テントの設営、机・椅子の設置等あわただしく準備を終えたころ、「トップランナーは〇〇時頃通過する」という情報が錯綜し、ドタバタ。結果的には、約一時間だれもこないポイントに会員を向かわせてしまうという失策もありました。しかし、トップランナーが通過し多数の選手の姿が見えるころになりますと、そこは長年のボランティア実績のある我が仲間たちは水をえた魚のようにいきいきとし、各ポイントで選手を励まし、エイドでは疲れた選手には手厚いお世話をし、元気一杯の選手には応援のエールを力の限り送りました。青年中央会のテントの中も活気と大声で賑わっていました。最終のPM9:30まで、後は熱気・感動・パワーで一気に走り抜けました。

私の無理な段取りもあり何度もポイントに立って頂いたにもかかわらず、いつも気持ち良く引き受けてくださった松本啓前会長、藤居OB、そして多くの会員の方々。ポイントの設定、会員の配置に尽力してくれた萬田、夏野両会員。我々の手足となりポイントへのドリンク補給、情報収集等々頑張ってくれた太田、中原、藤森各会員。そして、副責任者として私を支えてくれた安部、武海、山本各氏に心より感謝致します。

「トライアスロン」この不思議なもの。人の魂を揺さぶり感動を与え、少年の心を瞬時蘇らせるもの。ばかばかしいほど無邪気になれる素晴らしい夏にまた会いましょう。皆さん本当に有り難うございました。



鳥取県中小企業青年中央会平成10年度通常総会開催

7月27日(月) ホテルサンルート米子において、平成10年度通常総会が開催された。(会員116名の出席、101名の委任状) 秋田県会長を議長とし、第1号議案「平成9年度事業報告並びに収支決算書」、第2号議案「平成10年度事業計画並びに収支予算書」が、無事承認された。第3号議案では新役員が以下の通り承認された。

- | | | | |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 会長 | 米村 年博(東部) | 安藤 充勉(中部) | 宮廻 裕和(西部) |
| 直前会長 | 秋田 謙秀(西部) | 米花 康友(東部) | 澤 裕一(東部) |
| 副会長 | 米花 康友(東部) | 澤 裕一(東部) | 木下 貴啓(東部) |
| 理事 | 俊島 昭博(東部) | 小谷 義之(中部) | 山本 博文(中部) |
| | 岩間 宗徳(中部) | 小谷 義之(中部) | 山本 博文(中部) |
| | 安部 利夫(西部) | 浜田 一哉(西部) | 小林 慎一(西部) |
| 監事 | 岡本 光広(東部) | 桜井 博幸(中部) | 門脇 浩二(西部) |



米村新県会長は「一人でも多くの会員に参加してもらうよう努力する。」と力強く抱負を語られ、新体制が華々しくスタートした。

懇親会では、秋田直前県会長から米村新県会長へ鍵引渡式が行われた後、秋田直前県会長・矢谷直前会長〔東部〕・大前直前会長〔中部〕・小原直前会長〔西部〕へ会長権が贈られた。

また余興においては、今回3度目の艶技となる秋田直前県会長を筆頭にした西部の秘密委員会「特殊技能開発委員会」による貝殻節を披露し、会場から大喝采を浴びた。



第24回 鳥取県西部中小企業青年中央会 平成10年度 通常総会開催



平成10年7月15日(木) 米子国際ホテルにおいて、第24回平成10年度鳥取県西部中小企業青年中央会通常総会が開催された。小原会長が一年を振り返り「出席率の向上・新入会員の増強・経費の節約など厳しい事を言ってきた一年であったが、よく協力してくれた。」と挨拶された後、決議事項に移り山本副会長の議事進行のもと、第一号議案平成9年度事業報告並びに収支決算承認の件、第二号議案平成10年度事業計画並びに収支予算(案)承認の件が満場一致にて可決された。精進者の表彰に続いて、松本直前会長に中央会活動における功績を称え感謝状の授与が行われ、今年度で卒会される14名

の会員に卒業証書の授与が行われた。卒会生を代表して富田会員が中央会活動を振り返り「青年中央会の良さ、有難さを今、益々感じている会員の皆さんもそれを早く感じ取って欲しい。」と挨拶された。

総会に引き続き2名のご来賓及び32名のOBをお迎えし、懇親会が開催された。宮廻新年度会長が「今年度のテーマを「未来のグランドデザインを目指して」～Act For Futureと定め近い将来、

我々の世代が地域リーダーとして活躍すべく、会員としての自覚と誇りを持ち活動していきたい。」と、挨拶された。表彰式では、優秀委員会は総務委員会、最優秀委員会は21地球委員会と発表された。続いて行われた皆生トライアスロン出場選手の壮行会では、松岡OB・和田会員・野嶋会員の3名に中島太郎会員を応援団長とし、会場全員でエールを送った。

皆生海岸美化活動



去る6月28日(日) 米子市皆生海岸において、グランドワーク活動に賛同する企業・団体から約900名が参集し、環境美化活動が実施され、西部青年中央会からは21地球委員会を中心に40名が参加し、汗を流した。

今回、初参加したのは、前年度21地球委員会大野木委員長が、委員会活動を通じて環境問題を勉強していく中で、次世代の子供達に環境問題を委ねるのではなく、親である我々が、問題意識を持ち、身の回りのできる事から行動を示そう。と提言をされ、西部青年中央会としてボランティアを募集して参加した活動である。

当日は、小雨模様の中、日野川河口東屋から堀川河口までの範囲を東西二手に分け、1時間にわたり清掃作業を行った。

第18回

全日本トライアスロン皆生大会

トライアスロン発祥の地で全国の鉄人たちが競う全日本トライアスロン皆生大会。人情豊かなボランティアと沿道の心あたたまる応援が全国のトライアスリートを引き付ける。また、ロングの大会は、本州では、この皆生大会だけとなります。注目の高まってきている。その中で、各部の受け持つ責任は重要であり、失敗は許されない。

大会が近くなると毎年の事であるが、自然にボランティアをしなければならないと言う使命感が湧いて来る。不思議だが選手の体力の限界をかけた一生懸命な姿に感動を覚えてか、また、ボランティアの仕事の重要性を理解しそれを成し遂げた時の充実感が満足感に変わって行くからなのだろうか？そして今や、鳥取県西部中小企業青年中央会は、内外ともにボランティアとして無くてはならぬ存在になった。



皆生トライアスロンを終えて

ボランティア部長 原田 比登志

今年ボランティア部長として派遣されました原田です。今年の大大会も会員の方のご協力のおかげで、どうにか無事に成功する事ができました。ご協力有り難うございました。

この皆生大会は、いまでは県内で唯一の全国発信出来るイベントという存在になり、西部青年中央会はそのなかでも重要な役割を果たしています。

「継続は力なり」という言葉がありますが、まさしくその通りで今回で18回目、大勢のボランティアの協力のおかげで成り立っている大会です。これからも続けていく為には、ボランティア全員がこの大会で楽しんで頂くよう運営できたらと考えています。

今年には細中前部長より引継いだばかりで何もできなかったが、来年はいろいろやってみたいと思っていますので、来年も皆様のご協力をお願いします。



ボランティア部の活動

5月上旬、第1回ボランティア部会が招集され、今後のスケジュールと、団体ボランティアの担当者が決まる。翌日から、各団体へポスターを持参し、挨拶ならびに協力依頼に伺うのである。

今年は新聞折り込みがなかったためか、一般ボランティアの申込数が少なく、部員に一本釣りを要請。その結果を待って、団体・一般ボランティアのポイント割り付けを行う。このポイント割り付け作業が、非常に神経を使う重要な工程であり、ボランティア部が頭脳集団たる所以であろう。

この割り付け完了後、食糧部へ各ASスタッフ・ポイントスタッフの食糧を申し込み、輸送部と、ボランティア輸送計画を練る。

7月10日、Tシャツ仕分け、資料作成を行い、ボランティア説明会に備える。

13、14日に団体及び一般ボランティア説明会。17日に北高説明会を終え、大きな変更がない事に安心する。

大会前日、欠席連絡の入っているボランティアのポイントを確認し、割付修正を行う。

大会当日は、5時に集合し、ボランティア受付開始と同時に備品の移動。北高担当者は輸送部のバスで学校へ向かい、生徒を各ポイントへ送り届ける。第1ラン開始後、降雨となり、パトロール班が簡易雨具を配布しながらのチェックに走る。午前と午後にはポイントボランティアへ飲み物とかち割り配布。午後2時を過ぎるとゴール付近が賑やかになり始めた。東・中・西部青年中央会から出場した選手5名は、完走を果たす。ゴールした選手をお迎えするのも、ボランティア部の大事な任務である。

午後9時54分に最終ランナーを迎えた後、松岡競技委員長の挨拶に続き、原田ボランティア部長の万歳三唱で、競技終了となった。



皆生トライアスロン大会を終えて

マラソン部長 景 幹雄

今年はスイムが中止となり、大会はじめての第1ランからのスタートとなった大会でした。

当初予定の第1ランスタート時間では、ボランティア、ガードマン、エードステーション等の準備が出来ない事もあり、スタート時間を遅らせるなど、例年と違った大会でしたが、終って見ると、目だったトラブルもなく、無事に終了した大会でした。これもボランティアとスタッフの協力があったのだと思います。

マラソン部の方には、6月からの準備等本当に有り難うございました。また、19回大会には中央会からの選手が多数出場し、エードステーション、ゴールで今年とは違った感動をさせてもらえばと思います。

会長を初め、中央会の皆様本当にご苦労さまでした。



マラソン部の活動

大会1ヶ月前に第一回目のマラソン部会が開催され、山本副会長の挨拶の後、景部長より再度、協力の要請がマラソン部スタッフ一同の前でなされた。

計画、準備は、総勢、部長以下18名のスタッフで進められた。スタッフは、A班からB班までの4班に分かれ各々の班が担当する範囲をポイント地点で分け、各班の副部長を中心に、責任を持って準備を進めて行く。まず最初にマラソンコース全てに取り付ける看板の手入れ及び枚数の確認をし、不足分の発注から始まった。倉庫にしまっている看板を全部外に出し種分けをし、修理や不足分を調べる。終りしだい班ごとに分けるように倉庫の中にして置く。それから一週間後マラソンコース上の良く目立つ箇所に許可を得ながらポスターを貼っていく。簡単に思えるが、かなり時間を費やす作業である。

大会10日前、各エードステーションに配る備品の水洗い及び不足備品の確認、そして発注。

大会6日前、マラソンコース全ての看板立てが各班の担当するポイント間でそれぞれ行われた。トラック、カケヤ、ガムテープが必需品。

大会3日前、各エードステーションに配る備品を袋詰めにし配送しやすくしておく。また、迂回路のロープ張りをする。大会前日、バリケードの設置、見通しの悪い箇所の草刈り、白線引き、そしてコースの最終チェックを行い明日の本番についてミーティングを行い前日は終わった。

大会当日、5時に集合し今日の作業打ち合わせをする。海のコンディションが悪いため水泳が中止になった事を知らされエードステーションの立ち上げを急ぐ様、各エードステーションに伝達した。スペシャルドリンク他の配達、バリケードの組み立て、夜間照明のチェック、全コース、全エードステーションの見回りなど手分けをしながら行っていた。

今年は思わぬアクシデントも無く無事にマラソン部の仕事を終える事ができた。最後に小原直前会長から労いの御言葉と宮廻会長の一本締めで大会の成功を感じ合った。しかし、マラソン部には明日の片付けがまっている。頑張れマラソン部。

